

安井建築設計事務所

# CSR REPORT 2025

コーポレートメッセージ

## 人やまちを元気にする

### ミッション

継続的に革新的な環境技術  
とソリューションを提供し、  
人と社会づくりに貢献する

### ビジョン

サステナブルな社会の実現に  
向けて、持続可能な視点で新  
しい価値と可能性を創造する

### 経営理念

われわれは、創業からの歴史を踏まえ、下記の基本理念のもと、着実な  
建築創造活動を通して、顧客と社会が求めるものを的確に実現する

- 1) 持続可能な社会を実現するために、地球及び地域環境保全に配慮し  
た建築創造活動を継続する
- 2) 顧客及び社会との総合的・持続的な信頼関係をつくりながら次のプ  
ロジェクトを生み出す
- 3) 組織としての信頼の基盤である財務的な安定を維持する

### 行動指針

#### 1. 経営基盤の強化

働きやすい環境づくりとともに、持続的に事業拡大を図り、優れた業務と作品 / 成果の創出  
を行う

社会とつながる環境づくり、健康経営、信頼される業務運営、安定した利益の確保、DX に  
よる効率的経営、ガバナンスの強化

#### 2. 多様性と自発性の尊重

先駆け、自発的であり、人が育つ場とそのための仕掛けづくりを行う

人材育成（一人ひとりが輝く人材管理と成長支援）、人が成長する場の整備

#### 3. 社会変化への対応

社会課題に真摯に向き合い、先見性を活かして的確な解決策を導き出し、積極的な活動を通  
じて価値ある成果を生み出す

付加価値を生み出すアイデアと行動、建築を取り巻く分野への新たなチャレンジ、地域への  
深い働きかけ、AI/IT デジタル手法の活用

#### 4. 持続可能な社会への貢献

確実な技術基盤をもとに、新技術と環境への積極取り組みを組み合わせ、かつ内外の知恵を  
結集することで SDGs 型社会を実現する

脱炭素社会への積極的取り組み、エネルギー削減のための開発とチャレンジ、社会貢献活動

### 編集方針

本「CSR REPORT2025」は当社の経営理念や CSR のビジョンをステークホルダーの皆様にお示しするとともに、  
分かりやすい形で 2024 年 4 月～ 2025 年 3 月の全社の取り組みを紹介してご理解いただくことを目的として編集しています。

また、今回より誌面に記載の QR コードから WEB 上でご覧いただけるよう配慮しました。



建築という喜びに満ちたソリューションは、  
これまで蓄積したさまざまな経験や知恵、  
想像力から生まれます。

建築の設計とは、人やまちに希望をもたらす仕事です。人の心を動かし、社会の活動を支えるために、その先に人類を含む生態系すべてにとって幸せな未来が訪れるために、私たちは日々着実に取り組んでまいりました。建築という喜びに満ちたソリューションは、これまで蓄積したさまざまな経験や知恵、想像力から生まれます。これからも、先駆けた眼差しによって、新たな価値を導き出すチャレンジを続けます。

昨年、安井建築設計事務所は創業 100 周年を迎えました。2025 年はさらにその先へと着実に歩みを進める年です。私たちの組織の業務の確実性と建築の品質、それを支えるチーム一人ひとりの資質をなお一層高めることに心を砕きます。どうかご信頼くださいませ。そして、建築が貢献する社会のありかたについて、皆様と語りあいたいと心より願っております。引き続きのご厚誼を賜りたく存じます。

安井建築設計事務所 代表取締役社長 CEO

佐野 吉彦



# YASUI AT A GLANCE

社員数  
**461**人  
(2025年4月現在)



一級建築士  
**204**人  
(2025年4月現在)

1924年創業  
2024年  
創立**100**周年



技術者数  
**412**人  
(2025年4月現在)



公共プロジェクト件数  
**4200**件以上  
(2025年4月現在)



BIM 本格稼働  
**2007**年から

## 特集1 巻頭対談

# 山崎直子氏×佐野吉彦社長



2020 年、民間企業が製造した宇宙船が有人宇宙飛行に成功したのを機に、民間主導の潮流が高まり、衛星打ち上げが頻繁に行われている宇宙産業。創業以来、交通関連施設の建築に携わってきた設計事務所として、今後この分野にどのようにコミットしていくか。宇宙飛行士として活動後、現在は一般社団法人スペースポート・ジャパンの代表理事を務める山崎直子氏と当社代表取締役社長 CEO の佐野吉彦が、宇宙と建築について語り合った。（進行担当：山出美弥氏）

### 山崎直子（右）

1970 年千葉県出身。東京大学航空宇宙工学専攻修士課程修了後、NASDA（現 JAXA）に勤務。1999 年、宇宙飛行士候補者に選ばれる。2010 年、スペースシャトル「ディスカバリー号」で国際宇宙ステーションへ行く。現在、一般社団法人 Space Port Japan 代表理事、公益社団法人日本宇宙少年団理事長、女子美術大学客員教授などを務める。著書に『夢をつなぐ』『瑠璃色の星』『宇宙飛行士は見た 宇宙に行ったらこうだった！』共著に『僕たちはいつ宇宙に行けるのか』など。

### 佐野吉彦（左）

1954 年神奈川県出身、兵庫県西宮市に育つ。1997 年安井建築設計事務所代表取締役社長に就任。学校法人東京理科大学理事、一般社団法人 BIM 教育普及機構理事長、NPO 法人取手アートプロジェクトオフィス理事長。日本建築士事務所協会連合会会長、大阪府建築士事務所協会会長などを歴任。2019 年日本建築学会賞、2022 年黄綬褒章受賞、アメリカ建築家協会名誉フェロー会員。

### 山出美弥（中）

1984 年岡山県出身。2014 年大阪大学博士号（工学）。イギリスオックスフォードブルックス大学にて研究員（短期）を経験。2024 年から立命館大学政策科学部准教授。これまで数多くのエリアに居住した経験から、建築デザインを通して都市計画やまちづくり、コミュニティ・デザインを学ぶ。日本建築学会宇宙居住小委員会、立命館大学宇宙地球探査研究センター（ESEC）メンバー。

宇宙船を居住空間ととらえると、非常に厳しい気象条件に晒されているので、そこからの学びはいろいろあるはずです。



スペースポートをつくる場所で、まちづくりにも関わりたい

佐野：社会やクライアントと関係を築きながら建築を設計してきた安井建築設計事務所の100年の歴史において、駅舎や駅ビル、空港や国際客船のターミナルなど、交通関連施設の建築はつねに重要な仕事でした。今後、世界が宇宙とつながっていくなかで、地球全体を考え、時空を超えた発想でクリエイティブに活動していきたいと思っています。

山崎：安井建築設計事務所の皆さんには、私が代表理事を務める一般社団法人スペースポート・ジャパンでもお世話になっています。宇宙にひらかれた港づくりに際して、私たちもスペースポート<sup>\*1</sup>単体ではなく、まちづくりにも関わることができればと思っています。

佐野：我々もこれまで施設やまちづくりで培った経験値から考えられることの枠を踏み出して、想像の翼を広げたいと思っています。ところで山崎さんは今後、建築家はどのような視点からスペースポートづくりに関わるとよいとお考えですか。

山崎：私は国際宇宙ステーションのシステムインテグレーションにエンジニアとして携わった後、宇宙飛行士になりましたが、宇宙工学を学んでいた学生時代に宇宙ホテルを設計しています。そのとき、環境・設備・構造・力学など、すべてを満たす建築を設計することの難しさを垣間見ました。それぞれのまちに合うデザインを考え、クライアントのニーズに合わせて

建築をつくり上げるには、さまざまな知見が求められるのだらうと想像します。スペースポートについては今後、ニーズが多様化するなかで、竣工後の保守点検をはじめ先々を考えることが重要ではないでしょうか。

佐野：建築設計の仕事は紀元前7世紀頃からあったようで、最初のクライアントはエジプトの皇帝という話があります。建築があり続けるために3000年近く探求が続けられたわけですが、社会で新しい概念や発見が生じたとき、建築のかたちやつくり方も、少し変わってきているのではないかと思います。

民間人が宇宙に行く時代の、宇宙の居住空間は？

山出：これまで地上の建物を設計してきた安井建築設計事務所が、昨年、宇宙ビジネス室を創設しました。まずはその動機を聞かせてください。

佐野：たとえば月に居住する、それ以前に宇宙船を居住空間ととらえると、非常に厳しい気象条件に晒されているので、そこからの学びはいろいろあるはずです。その学びを地上の建築にフィードバックできるのではないかと。長いスパンで見れば社会に貢献できるはずで、最初はできるだけ遠くに球を投げて、思考の幅を広げています。

山崎：おっしゃるように、宇宙は気温も±120度、気圧の差も大きく、厳しい環境下で建築が行われます。一方、月は地球の1/6、火星は1/3と重力も異なるので、より自由な設計ができる面もあり、発想は広げられるかもしれません。宇宙にはいろいろな環境があります。逆にいえば、わたしたちは地球という特殊な環境にいるのだと思い起こすことも必要です。

山出：地球が特殊というのは、宇宙を実体験されたからこそその発想だと思いますが、山崎さんが理想と考える宇宙建築とは、どんなものなのでしょう。

山崎：2014年から宇宙建築賞をサポートしていますが、皆さんからさまざまなアイデアが寄せられます。私が滞在した国際宇宙ステーション（ISS）は科学実験を目的につくられ、宇宙飛行士は最小限の空間で居住し、快適さは二の次でしたが、

西九州新幹線長崎駅では、新幹線と在来線を大屋根で一体化し、日本で初めて膜屋根を採用しています。開放的なホームと、海に向かって伸びるような躍動感のあるデザインによって、新たな玄関口のランドマークを創出しました。（写真提供：鉄道建設・運輸施設整備支援機構）



今は民間の宇宙ステーションやホテルが構想されています。安全性と信頼性を最優先した上で、宇宙に滞在する人が無重量などの非日常を楽しめるように、宇宙の環境に適した設計のアイデアはいろいろあると思います。たとえば無重量を楽しめる区画と人工重力を発生させる区画を設けたり、月や火星であれば現地の砂や水を活用したり、重力が小さいからこそ、地上では実現できない形状の建築ができたり、発想の可能性は尽きることがないと感じます。

**佐野：**高度経済成長期以降、現代の建築は建物（オフィス）内が快適であればよいという考えが続きましたが、そもそも建築は内と外とがつながっていました。100周年を機に移転した我々の新東京事務所は、気候のよい時期には1階の扉を開放することもできます。気象条件が厳しいことは承知していますが、宇宙でも閉ざされた空間に住まうのではなく、外とつながる居住ができればと、妄想しています。

**山崎：**たとえば月ならレゴリス<sup>\*2</sup>の砂を使うなど、宇宙での建築においても土地に根差すことは重要だと思います。ただ宇宙の場合、最初から大きなものをつくるのではなく、小さなユニットをつなげるところから始めるなど、建築のプロセスを考えることも大切です。

**佐野：**つまり、アフリカの集落のように一つひとつ増殖するという……。

**山崎：**建設がどこでストップするかわからないので、それでも成立することを前提に進めます。ISSも、40数回にわたってモジュール体（パーツ）を打ち上げ、それを組み立てましたが、2011年7月の完成まで13年間かかりました。

**佐野：**世界が安定的に推移するかが不確かな昨今、地上の建築も最初から大きなフレームをつくり、そこに収めるというやり方ではなくなっています。宇宙での居住が安定的に広がれば、暮らし方にも変化が生じるでしょうか。

**山崎：**2024年に90歳の方が宇宙飛行に行ったように、これからは職業宇宙飛行士だけでなく、いろいろな方が宇宙に行く時代です。ヨーロッパではパラアストロノート（身体に不自由のある宇宙飛行士）が訓練を受けています。身体に不自由があっても浮遊状態ではハンディはなく、生活のしやすさ

を考えるきっかけになります。かつては宇宙飛行士がハードウェアに合わせていましたが、今は私たちのニーズに宇宙船側がどう応じるかというフェーズになっています。

### 無重量の世界での身体拡張

**佐野：**技術を身につけ、高いハードルを乗り越えてきた宇宙飛行士の方々は、皆さんとても優秀な科学者です。今後、民間人が特別な訓練をせずに宇宙に行っても支障はないのか、その点に興味があります。ある程度スキルを持つなどした上で宇宙に行くべきでしょうか。

**山崎：**宇宙で何をするかによりますね。宇宙船の保守点検や専門的な実験をする人は当然、訓練が必要ですが、今は仕事の分業も進んでいます。今後は飛行機内で緊急時の対応を安全ビデオで確認する感じで宇宙に行けるようになるのが理想です。

**佐野：**宇宙に出ると、人間の脳や精神にも地上とは異なる刺激を受けるのでしょうか。

**山崎：**宇宙は無重量なので、狭い空間でも四方八方使うことができます。地上では床に寝るわけですが、宇宙では壁に立って寝ても違和感はありません。どこで寝ても、普通に寝ていると思えます。机も表裏の両面を利用できるので、インテリアや家具の設計も変わるはずですよ。

**佐野：**物事のとらえ方も変わりましたか。

**山崎：**絶対的な上下はないこと、私たちも宇宙の一部なのだと、理屈でなく体感しました。行くまでは宇宙が特別と思っていましたが、宇宙では地球が特別なんだと、考えが変わりました。

**佐野：**極めてデモクラティックといえる世界ですね。そこに身を置いて、信仰の有無ということではなく、神の存在のようなものを意識することはありましたか。

**山崎：**たとえば聖書の一節を持っていく人、方角を示すアプリを利用してメッカを向いてお祈りする人など、やはり皆さんそれぞれ地上で大事にしていたものを宇宙でも大事にしていたように思います。宇宙に地球が誕生したことについて、何か great something を感じているのではないかと、と。山出：



身体に不自由があっても浮遊状態ではハンディはなく、生活のしやすさ考えるきっかけになります。

東京国際クルーズターミナルは、臨海副都心に人工地盤を構築し、大空間と自然光を積極的に取り入れることで、エネルギー効率の向上を図った設計となっています。波や帆をイメージした特徴的な屋根を有しており、クルーズ船の発着だけでなく、イベントにも対応できる空間となっています。





実際、宇宙に行ったときに感じたのは懐かしさで、私たちは本当に宇宙の一部なのだという意識が強くなりました。

大阪国際空港は、1969年の供用開始から50年以上が経過した2020年に、当社が大規模改修を手掛けました。既存ターミナルの思想と歴史を尊重・継承しながら、利便性の向上や環境・地域との共生を図るとともに、今後のストック型社会を見据えた建物の長寿命化を実現しています。



山出：逆に地球に戻って何か不便なことはありませんか。

山崎：無重量の世界は、身体が楽です。5キロほどある頭の重さを感じないので、肩こりがありませんし、床ずれも起きないので、寝たきりの方にとっては最適のリハビリ空間です。無重量に慣れると、地上に戻った際に頭、腕、紙一枚、何もかも重いのですが、同時に宇宙船の外に出たとき、そよ風が吹いて、土や緑があって、水や空気のおいしさをありがたく感じました。

佐野：厳しいけれど自由な宇宙の世界から、緑豊かな地上の田園風景を見てほっとする。両方を経験することには意義がありそうですね。

山出：地球人であることを思い返す感じでしょうか。

山崎：地球がより愛おしくなりましたね。

佐野：肩こりがなくなるといってお話から、医療への応用の可能性を感じました。日頃、身体のバランスがおかしいときに、ちょっと宇宙に飛ぶことでバランスを調整する。医療におけるビジネスの可能性があるのでないか、と。

山崎：そうですね。

佐野：ところで、これまでも宇宙をイメージして設計した建築家はわりといたように、我々は地球にしながら宇宙を思い描き、憧れを抱いています。

山崎：山出さんも宇宙建築の設計をされているのですか。

山出：専門は宇宙インテリアの研究です。土井隆雄さん、野口聡一さんにヒアリングした際、「どの面も使えるけれど、ちゃんと収納できる場所がほしい。本を収納する際は地上同様、背表紙を見せたい」とうかがったことが印象に残っています。建築家はつい楽しく展示したいと考えてしまうのですが（笑）

山崎：先ほどお話ししたように、宇宙ではどの面も自由に使えます。ただ、宇宙船内では天井に照明を、床にも目印をつけるなど、床と天井が決まっているほうが安心できました。

佐野：どの面も利用できるのは逆に不安で、無意識にバランスを取ろうとしてしまう。それもおもしろいです。

宇宙と建築は、社会へのアプローチの仕方が近い

佐野：宇宙は我々の想像力を鍛える場ですが、あまり特別扱いせず、我々の行動範囲内の目的地になり「ちょっと週末に宇宙に行ってくる」という感じになっていくとおもしろそうです。

山崎：宇宙に行って5分、10分で戻るという旅行もすでに始まっていますが、ただ行って戻るだけでなく、別の目的地に行くとき、宇宙を通過する時代がそう遠からず来ると思います。

佐野：これまで宇宙に行った宇宙飛行士は何名ほどですか。

山崎：ユーリイ・ガガーリンさんから数えて700名ほどです。

佐野：今、各大学は宇宙に関わる専攻を開設してきていますが、卒業後の進路が充分、整っていません。宇宙での耐候性を研究した学生が、砂漠など極限気候で機械をどう動かすかを扱うコンサルタント会社に就職したりするようですが、若者の宇宙への想いを叶える職場がもっとあるといいのと思います。

山崎：そうですね。ただ、宇宙産業は世界的に成長しています。日本も国として力を入れていますが、よくいわれるのが人材不足です。宇宙は特別かつ遠い分野と思われがちですが、建築をはじめ、さまざまな分野で人的交流を増やし、いろいろな分野の方々に宇宙ビジネスに参入してほしいと思います。

佐野：人材不足ではなく、互いの呼びかけができていない、と。

山崎：宇宙関連事業は幅広いので。たとえば宇宙食をつくるとなれば、栄養分野の専門家が求められますし、経済、法律、建築などさまざまな分野が複合した総合力が求められます。

山出：私も宇宙に興味を持つ学生を育てていきたいです。

佐野：うかがっていると、専門家だけでなく、協業できるセンスを持った学生が育つとよさそうですね。何かを実践する際、異なる才能をつなぐとよいのは建築も一緒です。我々は、建築はデザインだけでなく、構造、設備、その他いろいろな知恵を合わせてできるものと教えられてきました。

**山崎：**宇宙と建築は社会へのアプローチの仕方が近く、共通項が多々あります。今後、事業として連携するに当たって、考え方やノウハウ、アプローチなど、建築に学ぶことは多いなと感じています。

**佐野：**建築生産はプロセスを経る必要があるのですが、決してひとりではできません。3000年にわたって多くの人が力を合わせてきましたし、それは今後も変わらないでしょう。

### 宇宙に行って感じた懐かしさ

**佐野：**山崎さんは子どもたちに向けた活動もされています。

**山崎：**前理事長の松本零士先生を継いで、公益財団法人日本宇宙少年団で宇宙教育を行っています。

**佐野：**子どもたちが純粋な気持ちで宇宙とつながること、夢を持ち続けることは大事なことです。

**山崎：**宇宙の子、地球の子、科学の子をつくろうというコンセプトで、宇宙だけでなく身近な自然にも広く興味を持ち、宇宙船地球号の乗組員として一緒に未来をつくろうと、活動しています。

**佐野：**理系、文系は問わずに？

**山崎：**はい。宇宙食をつくりたい、宇宙ファッションを考えたいという子もいます。

**山出：**山崎さんは若い頃から宇宙飛行士になりたかったのですか。

**山崎：**望遠鏡で月のクレーターを見たとき、宇宙っておもしろいと思い、宇宙に住めるのかなと想像を膨らませましたが、当時は日本人の宇宙飛行士はいなかったので、職業として考えることはなかったです。中学時代に毛利衛さん、向井千秋さん、土井隆雄さんが宇宙飛行士に選拔され、日本人も宇宙に行く時代になっていくことに刺激を受けて。その後、エンジニアになり、宇宙開発に携わりながら宇宙を目指しました。

**佐野：**山崎さんが憧れていた宇宙とは、どんなものだったのでしょうか。

## 考えること、教えること、学ぶこともスキルである。

**山崎：**宇宙はビッグバンで始まり、いろいろなかけらが集まって地球や人間の身体はできていると学校で学んだとき、とても感動しました。同時に宇宙は遠いところではないと感じたんです。実際、宇宙に行ったときに感じたのは懐かしさで、私たちは本当に宇宙の一部なのだという意識が強くなりました。

**佐野：**学校での学び、教師の導きが大きかったようですね。

**山崎：**身近な人の影響は大きいと思います。

**佐野：**これまでいろいろな国の方と協業されてきて、日本と他の国の教育の違いなどは感じたことはありますか。

**山崎：**テキサス州ヒューストンで訓練を受けていたのが、長女が幼稚園から小学校低学年の時期でしたが、アメリカではその年代の子がサイエンスフェア（自由研究）を発表します。まず仮説を立て、何を準備して、どう調べるか、その方法を説明した上で、結論、最後に自分の考えを述べます。基本の型に沿って発表しつつ、自分なりの工夫をしなければならないこと、それを6～7歳の子どもがやることに驚きました。日本でも考えることは大事といわれますが、考えるとはどういうことか教えてもらえません。でも、まず基本の型を学ぶことで、考えることもスキルだなと、そのとき思いました。

**佐野：**考えること、教えること、学ぶこともスキルである、たしかにそうです。そこは日本が少し弱いところかもしれません。

**山崎：**今日、お話をうかがって建築は本当に幅の広い仕事だと感じました。それは宇宙にも通じることなので、地上でも宇宙でも一緒にイノベーションを広げられればと思います。

**佐野：**宇宙も建築も古来、続いているテーマです。想像やイノベーションの翼を広げ、広がりのある仕事をするためにも、協業は大事なことで、今後もお知恵をお借りできればと思います。



\*1 スペースポート／宇宙へ行くために宇宙船が飛び立つための港の総称。宇宙産業発展のための重要なインフラとされている。

\*2 レゴリス／月の表面を覆っている砂のような堆積物。

特集 2 安井建築設計事務所の新しい働く場の創造と社会への提案

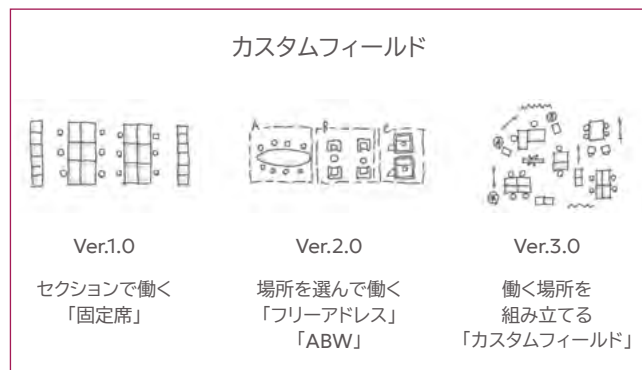
## 東京事務所「美土代クリエイティブ特区」

安井建築設計事務所は、創業100周年を迎えた2024年に、築60年のビルをリノベーションして新たなオフィス「美土代クリエイティブ特区」（東京事務所）を誕生させました。このオフィスは、働く場としての新たな形を提案し、地域とのつながりを深め、社員の自主性と創造性を促進する環境づくりを目指しています。



## 人材の育成 社員の自主性と創造性を高める環境

社員が自らのクリエイティビティを高め、自主的に成長できる場として設計しています。特に、カスタムフィールドという概念を導入し、社員が自分の働く場所を自由にレイアウトできるようにしました。これにより、個々のプロジェクトや分野ごとの活動が可視化され、社員同士の交流やアイデア交換が活発に行われる環境が整っています。また、働く場におけるエンゲージメントが向上し、「人が育ち、人を育てる」場としての役割を果たしています。



## 多様性の尊重 自由・自主・自治・自立・自律のカルチャー

「美土代クリエイティブ特区」の基本理念は、「自由・自主・自治・自立・自律」であり、これらの価値観を持つ環境が社員の多様な働き方を支援します。1階のオープンなスペースでは、社内外のイベントやワークショップが行われ、個人やチームの多様な活動が促進されています。社員が自由に参加し、自治的に運営する仕組みが構築され、クリエイティブな発想が生まれやすい環境を作り上げています。

## 地域社会への貢献 まちとのつながりを深める

単なるオフィスとして機能するだけでなく、地域社会とのつながりを深める場所としても重要な役割を果たしています。1階には、まちとの一体感を持たせるために大きな開口部を設け、半屋外の活動スペースを作り出しました。ここでは、地域住民と交流しながら、さまざまなイベントを開催し、地域の文化や活動の発展にも貢献しています。まちとのつながりを大切に、周囲の地域に刺激を与え、共に成長する場を提供しています。

## 新しい働き方 柔軟な働き方を支援する新しいオフィス

従来の固定的な働き方から解放され、柔軟に働くスタイルを実現するように設計しました。オフィス内はペーパーレスであり、PCとモバイルモニターを活用して、社員は自由に場所を選んで働くことができます。3層の吹き抜けと階段、フロア回遊性を活かした設計により、社員同士のコミュニケーションが自然に生まれ、つながりが生まれます。この新しいオフィスは、「自らのクリエイティビティを自らで成長させるチャレンジの場」として、社員が自由に働くことを支援しています。



吹き抜けを通して光や風、音がつながるオフィス。

新築オフィスと比べて  
温室効果ガス

約 **96%** 減  
〔建設時排出量比〕



100周年事業の一環として秋に開催した「まちなか展」(上)には、多くの来場者が訪れました。また、社内行事として餅つきも実施しました(下)。



新東京事務所のお披露目として、オープンハウスで「平河町ミュージックス in 神田」を開催しました（上）。また、社員が制作したアート作品をオフィスに飾る「オフィス アート プロジェクト」（中）や、創造的な仕事の合間に料理を通じてリフレッシュすることを目的とした調理実習イベント（下）も実施しました。

建物運用時の  
エネルギー消費量を  
**45%** 削減  
(BEI 値 0.55)

5 月に開催された「東京建築祭」には、3,000 人以上が来場しました。

## デジタル技術の活用 IoT で快適さと効率化を実現

デジタル技術を積極的に活用し、快適な働き方を支えるための環境づくりを行っています。スマートフォンを利用した位置情報をはじめ、温湿度のセンサーやサーカディアンリズム照明などを導入し、社員の健康や快適性を向上させました。デジタル技術によって、リアルタイムで温度や湿度を計測し、快適な作業環境を作り出すとともに、エネルギー管理の効率化にも貢献しています。また、IoT 技術を用いたエネルギー管理システムは、オフィスの快適さを自動調整し、コスト削減にも寄与しています。

## 健康経営の推進 植物が導くウェルビーイング

設計における植物の導入は、健康的な環境作りに欠かせません。バイオフィリアを基盤に、植物は身体的・精神的な健康を向上させる役割を果たします。具体的には、社員が植物を育てる体験型ラボや再生プロジェクトを通じて、健康的なライフスタイルを促進。植物がある空間は、ストレス軽減や空気の浄化に貢献し、健康促進に効果をもたらします。自然と調和した空間が、利用者の健康を支える要素となります。



## 持続可能な環境づくり 自然の恵みとエネルギー効率の調和

新しいオフィスの設計では、持続可能な環境を意識した取り組みを行っています。築 60 年のビルをリノベーションし、エンボディドカーボンを削減、ZEB Oriented（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）認証を取得しました。エネルギー消費を削減し、環境負荷を低減しています。さらに、自然光や風を取り入れたバイオフィリックテラスを設け、社員が自然の恵みを感じながら働ける環境が提供されています。これにより、社員のウェルビーイングを向上させ、より持続可能な働き方を実現しています。

このように、安井建築設計事務所の東京事務所は、人材の育成、多様性の尊重、地域社会への貢献、新しい働き方、デジタル技術の活用、健康経営の推進、そして持続可能な環境づくりで未来の働く場を実現しています。この取り組みは、企業としての社会的責任を果たし、さらに新たなビジネスモデルを提案する場としても位置付けています。

社員の歩行量が  
1日 **25%** 増加  
[前事務所比]

## WELL 認証 (WELL V2) ゴールドを取得

米国・健康建築性能評価制度「WELL Building Standard (以下、WELL 認証)」の WELL v2 ゴールドランクを取得しました。

働く人や訪れる人の「快適さ」「心地よさ」「集中」「コミュニケーション」「リラクセス」そして「自主的イベント／活動」を優先し、そして組み合わせた独自の自立型 WELL 認証プロセスを目指しました。「美土代クリエイティブ特区」が掲げているコンセプトやイノベーションスタイルは、世界的認証機関からもすべてにおいて先進的かつ高い評価を得ることができました。



ビルの屋上にある当社専用の畑で、社員が自ら植えたトマトを収穫しました。



## ZEB-Oriented (BELS で 5 つ星) 評価を取得

美土代クリエイティブ特区が入居する「WORK VILLA MITOSHIRO」が、ZEB-Oriented 評価を取得しました。

約 60 年前に竣工し、環境性能的にも不利なこの時代の 20,000 m<sup>2</sup>を超える大規模建築が ZEB-Oriented (BELS 5☆) を達成することは極めて珍しいケースです。

### 屋内緑化コンクール 2024 屋内緑化推進協議会会長賞

「社内からはじまる、みどりと繋がり活動」建築設計者としてみどりと共存し、みどりの特性や効果を体験することで、“みどりを活かした建築空間の向上を図る設計とはなにか”をひろく考え、“設計者がみどりと繋がる活動”として、「建築設計者によるバイオフィリア体験型ラボ」「ベットプランツ計画」「植物再生・再利用プロジェクト」など、処分される植物を社員自ら再生・再利用し、社内のサステナブル意識を高める取り組みが評価されました。

バイオフィリックデザインに関連する企画から植物のメンテナンスまで、社内の専門チーム「バイオチーム」が一貫して担当しています。



## 本社・大阪事務所での取り組み

### 地域社会への貢献

本社および大阪事務所が所在する北大江地区では、1998 年に北大江地区まちづくり実行委員会が発足し、当社はその設立初期から参画しています。地域住民と企業が参加するワークショップを重ね、再生された北大江公園が活動の中心となり、実行委員会が主体となってさまざまなイベントや活動が定期的に行われています。特に、2006 年から開催されている「北大江たそがれコンサート WEEK」は、公園での野外コンサートのほか、地域各所で音楽を楽しむイベントで、当社の 1 階でもコンサートを開催しています。また、地域防災力向上を目的としたイベントや公園の清掃、花壇の手入れ、子どもも楽しめるまちづくりイベントなど、積極的に地域活動に参画しています。

子どもたちも参加した北大江公園での花壇の手入れ(右)。当社1階で開催している北大江たそがれコンサート(下)と野外コンサート(右下)。



### 環境への貢献

本社・大阪事務所では、関西電力株式会社が提供する環境に配慮した CO<sub>2</sub> フリーの電気と、大阪ガス株式会社が供給するカーボンニュートラルな都市ガスを導入し、年間約 270t の CO<sub>2</sub> 排出削減に貢献しています。カーボンニュートラルな都市ガスは、天然ガスの採掘から燃焼に至るまでの工程で発生する温室効果ガスを、CO<sub>2</sub> クレジットによるカーボンオフセットで相殺することで、実質的な CO<sub>2</sub> 排出量をゼロにする仕組みです。



# 安井建築設計事務所の CSR

## 実績と目標値

中長期的な目標と KPI を策定しました。今後は、設定した KPI の達成に向けて取り組み、持続可能な社会への貢献を目指して活動を進めてまいります。

| 4 つの柱          | 社会課題に対する取り組み                                                                                                              | 指標 (KPI)              | 2024 年度目標                        | 今年度実績                   |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|----------------------------------|-------------------------|
| 建築の品質と業務の信頼性   | 良質な建築の提供<br>単に美しく機能的な建物をつくることにとどまらず、社会や環境、利用者のニーズに応え、高品質で価値ある空間を生み出すこと                                                    | 受賞件数                  | 2030 年度：70 件以上                   | 32 件                    |
|                |                                                                                                                           | メディア掲載                | 600 件以上                          | 675 件                   |
|                |                                                                                                                           | 技術社員のうち一級建築士資格保持者の比率  | 2030 年度：70%以上                    | 57%                     |
| 社会と環境のサステナビリティ | ライフサイクル CO <sub>2</sub> ゼロ、建築の実現<br>環境負荷を低減し、資源循環や生態系との共生を図るとともに、地域の文化やコミュニティと調和した持続可能な建築を創造する                            | 中大規模木造の設計実績数          | 2030 年度：60 件以上                   | 12 件                    |
|                |                                                                                                                           | 同 CO <sub>2</sub> 貯蔵量 | 2030 年度：5000t CO <sub>2</sub> 以上 | 1,004 t CO <sub>2</sub> |
| 人の力を育て、活かす責任   | 多様な働き方<br>性別・年齢・雇用形態・国籍等に関わらず、それぞれの能力を最大限に発揮できる組織、制度がある<br><br>働きがいのある環境<br>人材が最大限の力を発揮できる職場環境をつくることは、組織の成長や建築の質の向上にもつながる | 女性管理職比率               | 2030 年度：15%以上                    | 5%                      |
|                |                                                                                                                           | 男性の育児休業取得率            | 2030 年度：80%以上                    | 33%                     |
| 地域社会とともに       | 地域に根差した活動を通じた文化の熟成<br>建築や都市計画の枠を超え、持続可能で魅力的なまちを育てる活動を行う                                                                   | 地域行事への参画、支援           | 3件                               | 2 件                     |
|                |                                                                                                                           | 文化の熟成、支援              | 50 件                             | 59 件                    |

# I. 建築の品質と業務の信頼性

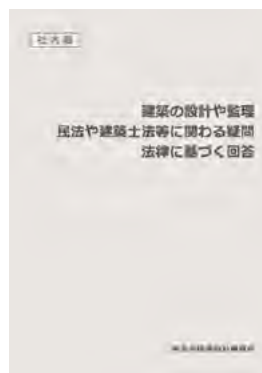
長年にわたり、建築設計にかかわるさまざまな専門技術の向上・開発に努め、ISO9001に基づく品質マネジメントシステムを通して、高い品質と信頼性を目指して取り組んできました。引き続き良質な建築設計およびそれに付帯するサービスを追求し、その能力を社会の繁栄のために活用します。

## 品質マネジメントシステム

健康で安全な生活の基本である住環境の創造・維持において、建築士事務所は重大な職責を担っています。そのために、企業ならびに所属する社員すべてが職能倫理とコンプライアンスに基づいて業務を遂行します。設計監理を通して蓄積した経験と知識をベースに、さまざまな分野の専門家との間に信頼のネットワークを構築し、価値のあるソリューションを提供します。

### 法務関連冊子の発刊や講習会の実施

顧問弁護士へ問い合わせを行った情報を月に1度社内配信を行い、情報共有をするとともにそれらをまとめたテキストの発刊や、顧問弁護士による法務講習会を定期的の実施しています。



社内で配信している法務情報をまとめた冊子「建築の設計や監理 民法や建築士法等に関わる疑問 法律に基づく回答」。これをテキストとした講習会を定期的の実施。

### 安井マニュアル

品質マネジメントシステムの根幹となる業務手順書である安井マニュアルは1999年6月に制定、これまで24版の改訂を重ねています。



## 情報の適切な管理

経営の透明性を高めるとともに、プロジェクトに関する情報セキュリティ対策を確実にを行い、顧客や社会の高い信頼に積極的に応えます。そのために当社法務・コンプライアンス室では、情報管理体制の強化に加え、社員一人ひとりが持つべきコンプライアンスに関する意識の共有化を図ることで、顧客の信頼に応えつつ円滑に業務を推進できるよう努めています。



### セキュリティ研修の実施

社員の情報セキュリティ意識を高め、業務リスクを低減するための情報セキュリティ研修を半年ごとに実施しています。

#### セキュリティ研修（講義）

2024 年 9 月～ 11 月開催

2019 年 9 月開催

2018 年 9 月開催

#### セキュリティ研修受講状況 （体験型教育訓練実施）

2024 年 12 月実施

（e ラーニング）

2024 年 8 月 実施

2023 年 6 月 実施

2022 年 10 月 実施

#### セキュリティ訓練 （標的型攻撃訓練メール）

2024 年 実施

2023 年 実施

2022 年 実施

2021 年 実施

2020 年 実施

## 技術や能力を培う基盤づくり

社員の技術力向上のための教育を充実させています。各階層に求められる知識や能力、スキル習得のための各種研修の主催や、研修への参加派遣を実施しています。



### 若手への技術の継承、教育

組織風土改革に参加している社員たちが作成した「人やまちを元気にするハンドブック」と「設計業務リスト」を活用し、社員同士の情報共有を図り、若手社員が自ら考え行動できる設計者になることを目指しています。

### キャリアアップの取り組み

新入社員集合研修、新入社員指導員制度、新入社員フォローアップ研修、キャリア採用社員研修、スキルアップ研修、BIM 研修、デジタルデザイン研修、社内研修・オープン参加部内研修（CPD 対象）、資格取得支援、技術フォーラム、社内表彰制度、海外トレーニー制度



### 新入社員研修受講者の声

新入社員研修を通じて、社会人として、また安井で働く者としての姿勢を学び、建築設計に携わる者として基本的な所作を習得しました。研修で見つけた課題は今後も業務を確実にこなしながら、学び続けていきたいと考えています。

研修を通して専門が異なる人と設計に取り組むのは初めてで、多くの学びがありました。短期間の設計課題のため、すべてのアイデアを実現することはできませんでしたが、それぞれの専門分野を活かし、限られた時間の中でより良い建築を設計する貴重な機会となりました。

100 年の歴史の中で積み重ねられた信頼の大切さを、実際に建築を目にして改めて感じました。座学で「信頼関係が大切」と学びましたが、それがどれほど重みのあることかを強く感じました。今後、実務に携わる際には、先輩方が築いてきた信頼を引き継いでいることを意識し、責任を持って取り組みたいと思います。

## II. 社会と環境の サステナビリティ

企業としての社会における価値を高め続けます。建築士事務所として社会において有用な存在であるために、率先して責任を果たし、模範となるよう努めます。さらに、これからの地域や社会がサステナブルであるために、企業としても、またいろいろな専門家と連携しながら、積極的な提言と実践を行います。それは最も重要な企業の価値になるはずです。

### 企業と地域のリスクマネジメント

どの職業の事業活動にもさまざまなリスクがあります。それを事前に的確に把握することで、迅速なリスクマネジメントを目指します。さらに、そのための日常からの事業継続力を高める体制づくりと社内意識共有を整えます。ビジネスにおいては、さまざまな影響の極小化と早期復旧および再発防止に努める取り組みが重要ですが、地域における災害・危険に対しても同じ観点から、企業としての積極的な提言と関与をおこないます。

#### 事業継続への取り組み

建築設計にたずさわる企業として、設計事務所の業務全般における事業継続の重要性を強く認識し、建築設計の専門性を活かした事業活動と社会貢献を実現すべく、従前より事業継続体制の強化をはかっています。さらに、2022年3月、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会から、事業継続及び社会貢献の区分にてレジリエンス認証の認定を受けました。



#### 事業継続方針を策定

安井建築設計事務所は、「建築創造活動を通して、顧客と社会が求めるものを的確に実現する」理念のもと、建築設計と周辺分野で活動しています。もし建築物の事業継続性能が不足すれば、それは、人命・財産の喪失や、社会・経済の停滞に帰結します。従って、事業継続は建築物の重要な特性であると私達は捉えています。さらに、当社は建築設計にたずさわる企業として、設計事務所の業務全般における事業継続の重要性を認識しています。

#### 事業継続のための取り組み

##### 1. 活動の目的

災害から利用者・建築物・地域社会を守る建築設計サービスの提供

##### 2. 達成の手段

建築設計の専門性を活かした事業活動と社会貢献の両面での活動

##### 3. 平常時

- 建築設計サービスにおける事業継続の視点での顧客提案やサービス提供
- 社会貢献活動における建築設計と事業継続の2つの専門性を活かした貢献

##### 4. 発災時

- 事前準備した規則や計画にもとづく自社の事業活動の水準維持と早期復旧
- 専門領域での安全確認や修繕助言による地域社会や顧客施設の早期復旧

### 持続可能なパートナーシップの構築

相互信頼関係に基づき、お互いの技術力の向上をはかるとともに、共に成長できる持続可能な関係を構築するために、サプライチェーン全体での付加価値向上に努めます。また、さまざまなステークホルダーとの対話を大切に、社会全体の成長と繁栄に貢献していくことを目指します。

#### パートナーシップ構築宣言

共に成長できる持続可能な関係を構築するために、サプライチェーン全体での付加価値向上に努めており、内閣府や中小企業庁などが推進する「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」の趣旨に賛同し、2022年1月、「パートナーシップ構築宣言」を公表しています。



## “地球環境を再生させ”

### 人とまちを元気にする

～サステナブルと共にリジェネラティブの視点を～

SDGs は国連の「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中の目標です。SDGs の原点といわれている地球憲章（2000 年ユネスコ制定）の前文には「私たちのすみか、地球」と書かれています。地球環境危機の中、人間のためだけでなくすべての生態系を含む健康的な生物圏を維持する取り組みが求められています。パリ協定では 2030 年時点で温室効果ガスの削減を 2013 年度から 46%削減することを目指しています。また生物多様性条約締約国会議（COP15）における 2030 年のミッションは「生物多様性の損失を止め反転させ回復軌道に乗せるための緊急な行動をとる」とされています。

以上のように 2030 年までにたくさんのミッション達成が求められています。私たちが手掛けようとしている 2030 年に竣工するプロジェクトの計画は今まさに進もうとしています。残り 5 年しか猶予がないため、より高い意識を持って加速度的に取り組んでいく必要があります。

近年、サステナブルと並び“リジェネラティブ”というワードが環境再生という概念で使われ始めています。現状を維持するだけでなく、積極的に多くのシステムを改善することで、より良い状態に地球環境を再生していこうという意味が込められています。気候変動、激甚災害、生物多様性など深刻化するさまざまな課題は、サステナブルな発想だけでは乗り越えられない状況に陥っています。環境に負荷をかけないと

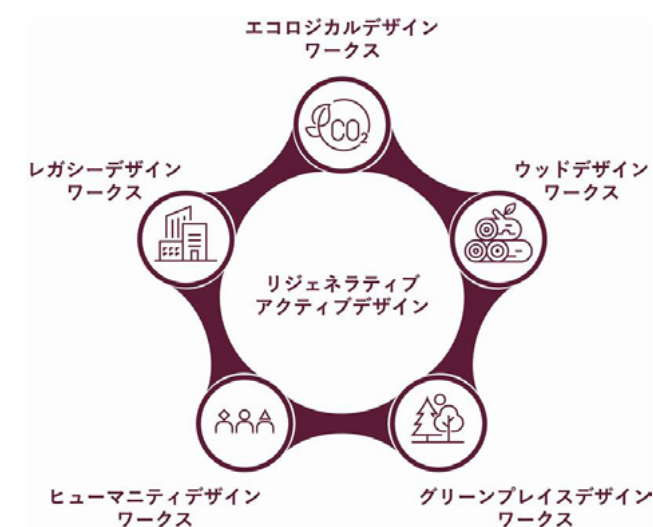
いうサステナブルなアプローチから、地球環境の再生や回復に積極的に寄与する態度がデザインに求められています。私たちは建築設計やまちづくりの専門家として『リジェネラティブ アクティブ デザイン』を礎に、人にとっても地球にとっても環境をより豊かにする包括的な視点からものづくりに取り組む必要があります。

『リジェネラティブ アクティブ デザイン』は、サステナビリティを問い直すところからはじめないといけません。例えば「CO<sub>2</sub> 排出を減らす」「木を使う」「緑を植える」「コミュニケーションを誘発させる」「古いものを残す」というだけで本当にサステナビリティに繋がると言えるでしょうか。私たちは自問自答するために 5 つのワークス「エコロジカル」「ウッド」「グリーンプレイス」「ヒューマニティ」「レガシー」を立ち上げました。リジェネラティブな視点で大切なのは、人を自然の一部として捉え、生態系を回復し、環境によりよい影響をもたらすことです。カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブ、レジリエント、ウェルビーイングなどさまざまな取り組みを可視化し、評価したうえで人間と自然の関係を見直しながらデザインすること、つまり包括的建築・まちづくりを実現していかなければなりません。

2030 年、さらには 2050 年に向けて大切なことは、専門家である私たち自身の環境へのマインドセットを“リジェネラティブ”つまり「再生させる」ことではないでしょうか。『リジェ



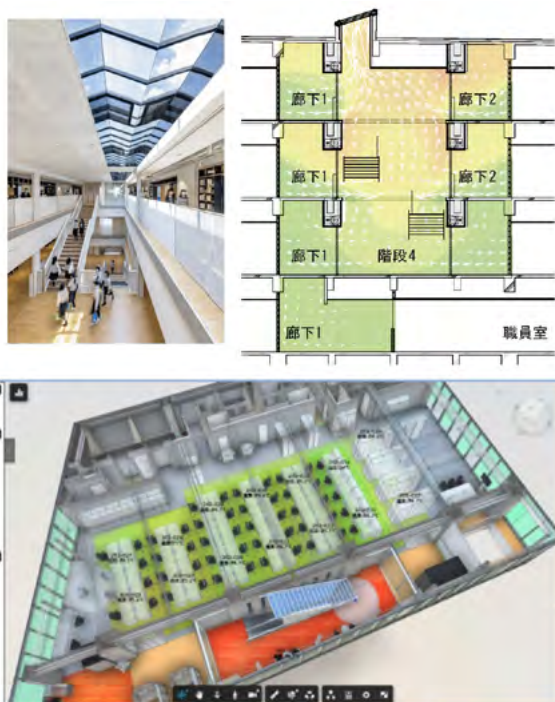
ネラティブ アクティブ デザイン』が当たり前の取り組みとなり、サステナブルと共にリジェネラティブの視点で、“地球環境を再生させながら”人やまちを元気にするために。



## エコロジカルデザイン

単に環境への負荷削減を意識するだけではなく、自然も人も新たにポジティブな循環を生みだし、自然環境との「共棲」を実現する建築を目指します。そのため、ふたつの設計手法のノウハウを集約し、プロジェクトにおいて実践します。

ひとつは、温熱・光・風・音といった自然・都市環境シミュレーションなど、外部環境へアプローチする手法。もうひとつは、エンボディドカーボン、IoT エネルギーマネジメント、ウェルビーイングなど、内部環境に着目した手法です。これらを統合したエコロジカルデザインにより、Net Zero エネルギー・ビルやカーボンマイナスへの実践や、地域資源・エネルギーや廃材・エコマテリアルの活用など多角的な視点からエコロジカルデザインの価値を提供していきます。



## ウッドデザイン

当社では、建築設計における木材活用を、単に建物構造や仕上材料として用いるにとどまらず、森林資源を多面的に活用し、需要を創出することで、次の森林環境を育む起点となる「循環型木材活用」を目指しています。

この「循環型木材活用」を実現するため、当社は川上から川下の全ての関係者をつなぐコーディネーターとしての役割を担います。

具体的な設計プロセスにおいては、木材の新たな活用方法を提案する際、新技術の開発や手法にとどまらず、計画地周辺の山林の状況や製造能力を調査した上で、地域に根差した木材活用の可能性を模索します。

これらの調査を踏まえ、地域産木材の活用に向けて、産地・

樹種・材積・加工法・構造などを総合的に検討し、プロジェクトにとっても、地域にとっても最適な活用手法を導き出します。また、建物竣工後には、その建物そのものが地域林業の誇りとなるよう、ブランディングにも取り組みます。プロジェクトを通じて得た地域林業の価値や特色を利用者へ継承することも、建築設計事務所としての重要な地域貢献であると考えています。

こうした取り組みによって、次なる森林環境や林業への関心を生むきっかけをつくります。

一連の「循環型木材活用」を通じて、次なる森林環境の再構築に寄与し、建築設計における木材活用をトータルコーディネートしていきます。



## グリーンプレイスデザイン

急速な都市開発は、生物多様性や地球温暖化など、緑に関連する多くの社会問題を引き起こしています。このような背景の中、当社では従来の規制による“受動的緑化”ではなく、緑を取り入れることで人々にとって直接的なメリットともなるような“能動的緑化”を推進しています。

単に緑を植えるのではなく、緑の「質」を高める計画を重視し、生物に配慮した潜在植生や緑地ネットワークの充実、人間の生活を向上する植物能力を活用した精神面への寄与、微気象緩和、炭素固定をはじめとする環境負荷軽減の定量化を通じ、都市環境に寄与する緑の活用を包括的に進めています。緑を活かした場所づくりを通じて、次世代へつなぐ環境づくりを推進します。



## ヒューマニティデザイン

コミュニティやシビックプライド、労働環境など、人を取り巻くさまざまな課題が表層化しています。多様化が進む現代社会において、人と人・建築・まちがどのように関わるべきか、そしていかにしてウェルビーイングを実現するかを問い直す必要があります。

当社では、こうした課題に対して包括的な視点のもと検証と実践を重ね、人々の主体性やシビックプライドを高めるデザインを展開。地域課題の解決に向けた具体的な手法や地域社会とのネットワークの拡張、効果的なワークショップの提案を通じて、自発的に発展していく社会の創出を目指しています。



## レガシーデザイン

既存建築の「再利用」を通じて、建築資産の再評価と新たな価値創造を推進しています。単なる「改築・保存」にとどまらず、建物の歴史や地域環境との関係性に配慮しながら、規模や設計者を問わず、多様な建築の可能性を見出し、未来へとつなぐ取り組みを進めています。

こうしたレガシーを活かした再利用は、リジェネラティブデザインにおいて重要な戦略であり、環境負荷の軽減、地域資源の循環利用、経済的持続性の確保といった多面的な価値を生み出すものとし、当社は建築の再生を通じて持続可能な社会の実現に貢献していきます。



## 龍谷大学瀬田キャンパス Green Deck・Sky Deck

### 『みんなで育む樹のフォリー』

キャンパス内において、交流・共創を促す心地よい空間の創出が求められた本プロジェクトでは、緑豊かなキャンパス環境や、シンボルである樹心館と調和を図りながら、愛着をもって使われる“居場所づくり”が求められました。

私たちはこの計画を「人々が寄り添える樹をみんなで育む」プロジェクトと捉え、樹の下に集うような新たな居場所を、樹のかたちを模した構造デザインによって提案しました。

また、学生をはじめとする関係者とともに、使用する木材の産地を訪れ、林業や製材の現場を実際に見て学ぶ機会を設けることで、この計画を“ジブンゴト”として捉えてもらうプロセスを重視。こうした「みんなで育んでいく」姿勢のもと、琵琶湖流域における資源の循環にも積極的に関わる取り組みを展開しました。

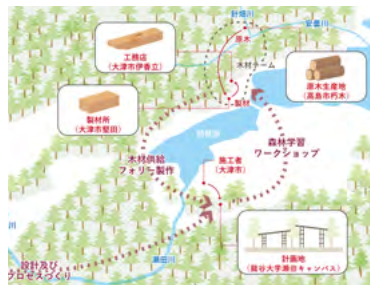


### 【プロジェクトにおけるリジェネラティブ・アクティブデザインの展開】



#### エコロジカルデザイン 居心地の良い場のデザイン

計画場所の特性に応じて影や光の在り方をデザインし、また風の流れを季節に応じてコントロールできるような設えを計画



ウッドデザイン  
地域の材・技術・つながりの活用  
産地、加工場、工務店すべて琵琶湖流域に限定、ウッドマイレージの低減、金物を極力用いない構法を採用



グリーンプレイスデザイン  
触れられる自然の創出  
既存舗装を撤去した上での芝生化や、既存樹木を伐採せずシンボルとして活用するなど、人・緑・生物の接点を新たに計画



ヒューマンティデザイン  
地域を巻き込んだユーザー参画  
琵琶湖流域で活動される木材関係者と連携し、学生や教職員への森林WSを開催、林業への理解を深めつつ、建物への愛着を醸成



レガシーデザイン  
学内シンボルとの調和  
樹心館を取り込んだ親しまれる広場の計画、樹心館への軸線を強化する空間デザインの提案など、既存活用によるエリア全体を魅力化

地球温暖化は、環境の大きな危機をはらんでいます。低炭素化・循環・自然共生社会の実現を目指して、設計監理業務の中でさまざまな取り組みを行っています。一方で、サステナブル社会の実現には、生活やビジネスにおける意識の転換が重要です。その視点から、組織内外のネットワークを通じてさまざまな機会で、市民やステークホルダーとの対話を重ね、啓発を図ります。

### カーボンニュートラルへの取り組みを宣言

2021年にはカーボンニュートラルへの取り組みを宣言しました。

美しい自然を保ち、人が健康で快適に暮らせる、環境にやさしい建築、そしてまちづくりを実現するために、カーボンニュートラル／ゼロエミッションを基盤において活動します。また、ESG や TCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosures) を踏まえ、カーボンニュートラル社会の実現へ向けて、以下の観点から、わたしたち及びクライアントの取り組みを推進しています。

#### ー 環境に配慮した業務活動の推進

業務活動における温室効果ガスを削減します。環境負荷の少ないモノとサービスの活用、ペーパーレスなど廃棄物の削減に取り組みます。

- ー 包括的な環境イノベーション提案とカーボンニュートラル化支援  
都市及び建物のライフサイクルにおいて、カーボンニュートラルに資する包括的な提案を行い、クライアントのビジネスの脱炭素化を支援します。
- ー カーボンニュートラル実現のための適切な提案  
建築の分野を超えたチームは、適正な環境技術・システム評価によるカーボンニュートラル化と省エネルギー化／ZEB化を提案します。



医療複合施設【i-Mall】医誠会国際総合病院。扇町公園と連続する形で緑道やまちかど広場を設け、地域に潤いをもたらす空間を形成しています。

### 環境に関する受賞

- ★省エネ大賞／一般財団法人 省エネルギーセンター
  - ・JR九州社員研修センター (ZEB-Ready)
- ★カーボンニュートラル賞／一般社団法人建築設備技術者協会
  - ・久光製薬ミュージアム (ZEB)
  - ・高島市庁舎新館 (ZEB-Ready)
  - ・大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワー
  - ・ヨンデンビル新館
- ★SDGs 建築賞 (旧 大阪サステナブル建築賞、環境・省エネルギー建築賞、建築省エネルギー賞)／一般社団法人住宅・建築 SDG s推進センター
  - ・あべのキューズタウン
  - ・ジオ彩都いぶきの森
  - ・大阪初芝学園北野田キャンパス 初芝立命館中学校・高等学校
  - ・金蘭会高等学校・中学校
  - ・ドームシティガスビル
  - ・日本アイ・ピー・エム大阪南港ビル
  - ・大阪ターミナルビル アクティ大阪
- ★ウッドデザイン賞／一般社団法人日本ウッドデザイン協会
  - ・龍谷大学瀬田キャンパス Green Deck / Sky Deck
- ★緑の都市賞／公益財団法人都市緑化機構
  - ・東京ワールドゲート 神谷町トラストタワー
- ★サステナブルキャンパス賞／サステナブルキャンパス推進協議会
  - ・立命館大学 びわこ・くさつキャンパス トリシア
- ★屋内緑化コンクール／屋内緑化推進協議会
  - ・美土代クリエイティブ特区 (社内からはじまる、みどりと繋がろう活動)
  - ・東京事務所 (建築設計者によるバイオフィリア体験型ラボ)
- ★木材活用コンクール／日本木材青壮年団体連合会
  - ・西条市庁舎 新館
- ★木材利用推進コンクール／木材利用推進中央協議会
  - ・山都町総合体育館パスレル
  - ・西条市庁舎 新館

- ★おおさか環境にやさしい建築賞／大阪府・大阪市
  - ・医誠会国際総合病院
  - ・サクラクレパス大阪工場 新本部棟
  - ・大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワー
  - ・hu+gMUSEUM (ハグミュージアム)
  - ・産業技術総合研究所関西センター
- ★大阪都市景観建築賞 (大阪まちなみ賞)／大阪府・大阪市、公益社団法人大阪府建築士会、一般社団法人大阪府建築士事務所協会、公益社団法人日本建築家協会近畿支部、一般社団法人日本建築協会
  - ・医誠会国際総合病院
- ★おおさか優良緑化賞／大阪府
  - ・大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー
  - ・ペプチド研究所 彩都研究所
  - ・みのおライフプラザ
  - ・りそな銀行 (旧大和銀行) 本店ビル
- ★みどりのまちづくり賞 (大阪ランドスケープ賞)／大阪府、公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会、一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部
  - ・大阪国際中学校高等学校
  - ・クマリフト彩都研修開発センター
  - ・大阪府立精神医療センター
- ★おおさか気候変動対策賞／大阪府
  - ・医療法人杏和会 阪南病院
- ★神奈川建築コンクール かながわ木づかい賞／かながわ森林・林業活性化協議会
  - ・東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館 映画保存棟Ⅱ
- ★熊本県木材利用優良施設コンクール／熊本県、熊本県森林組合連合会、一般社団法人熊本県木材協会連合会、熊本県木材事業協同組合連合会及びくまもと県産材振興会
  - ・山都町総合体育館パスレル
- ★滋賀県 低炭素な『まちと建物』コンテスト／滋賀県
  - ・立命館大学 びわこ・くさつキャンパス トリシア

### III. 人の力を育て、 活かす責任

社員一人ひとりの個性、多様性に応じて働くことができる環境・制度づくりを推進しています。実務能力向上、マネジメント力の育成の機会を設けるほか、心身ともに健康で働きがいのある職場づくりを行っています。

#### 生き生きとした組織づくり

所属する社員が、優れた品質を実現することと、家族を大切にすることはどちらも大切です。このふたつを両立させることができるよう、積極的に支援しています。すでにさまざまな支援制度を円滑に運用しており、さらに衛生委員会では、統括安全衛生管理者・産業医・衛生管理者を選任し、安全衛生活動の継続的な改善・向上、また、長時間労働面談・健康診断、メンタルヘルスセミナーの実施などにも取り組んでいます。安全で安心して働ける職場環境とは、人が成長するための基盤であると考えています。

#### 福利厚生制度

育児休業、子の看護休暇、介護休業、介護休暇、短時間勤務・時差出勤勤務、有給休暇の取得促進、保存休暇制度、在宅勤務・テレワーク、フレックス制度、確定給付年金制度、確定拠出年金制度、長期障害所得補償保険（GLTD）

#### 産業医による相談窓口設置とメンタルヘルス研修の実施

1年に1度のストレスチェックテスト実施のほか、産業医による個別面談、管理職向けのメンタルヘルス研修を行っています。



第一子の誕生に合わせて約1か月の出生時育児休業をいただきました。また、出産予定日より前倒しで妻が入院することになったため、在宅勤務と中抜けを組み合わせ、看病することもでき、会社の休暇制度や柔軟な働き方のありがたさを改めて感じました。在宅勤務や休業取得に際して仕事や休業手続きのフォロー等、周りの協力に大変感謝しております。今後も子どもの成長を見守りながら、仕事との両立を行っていききたいと思います。

大阪事務所設計部  
主事 米丸和寿

#### 休暇に関する制度と取り組み

★育児休業  
保育所に入所できない等の場合、子どもが3歳に達するまでは育児休業の取得を可能としています。（法令では2歳に達するまで）

★子の看護休暇  
中学校就学の始期に達するまでの子どもを養育する社員を対象。（法令では未就学児までの子どもを養育する社員が対象）

★年次有給休暇  
半日のほか、時間単位での取得が可能。

★保存休暇  
未取得で時効消滅する法定年次有給休暇を保存休暇として繰越し積立て、本人の傷病や家族の介護、本人または配偶者の出産、子の看護に使用できる保存休暇制度を2019年4月に設立しました。

## 適切な人事評価と配置

社員一人ひとりが働きがいと誇りを持ち、仕事を通じて成長することを重視しています。そのために年齢や性別、国籍に関係なく活躍できる機会を提供し、また、能力・業績を公平に評価する制度運用・人事配置に努めてきました。

### 個人面談・目標策定の実施

半期毎に所属する部門長による面談を行って課題を共有し、個々が自らの目標をもって積極的に業務に取り組む仕組みを設けています。



## 多様な人材の育成

多様な社内外研修制度やグローバルに活躍できる人材の育成に向けた取り組みを推進しています。育成プログラム・制度として世代を問わず、能力拡大のための人事ローテーション制度を取り入れています。また、ビジネススキル、能力開発を体系的に習得できる全社教育・育成プログラムとして全社員を対象に外部研修制度も導入しています。

### 社内人事研修制度の実施

マネジメント研修、階層別研修、人事研修

### 支援制度

海外赴任者向け語学研修、TOEIC 受験の奨励、オンライン英会話受講補助

### 人事制度改革プロジェクト

成長基盤のさらなる強化と次世代に向けた人事制度を実現するため、2026 年 4 月からの新人事制度導入を目指す「人事制度改革プロジェクト」を開始しました。

このプロジェクトでは、役割や成果に応じた評価・報酬制度を再構築し、社員一人ひとりがやりがいを持ち、成長できる環境をつくることを目指します。

オープンな進め方を基本方針とし、社員との意見交換や情報共有を通じて透明性の高い改革を推進します。



## ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進

女性の活躍推進については、積極的な採用・育成、そして出産後もキャリアを継続できる環境の整備などの諸施策を進めています。さらに外国人社員の積極的採用、国内外のインターン生の受け入れ、障害者雇用、定年の引き上げなども行っています。

また、常に健全な職場環境を維持することに努め、各自の人権を尊重し、不当な差別やハラスメントにつながる行為は一切行わないようさまざまな取り組みを行っています。その他、ハラスメント防止研修の実施や人権相談窓口の設置など、企業の社会的責務として課題解決にも取り組んでいます。



京都競馬場

### ハラスメント研修の実施

全社員向けに弁護士による定期的なハラスメント研修を実施しています。

### 人権相談窓口

社員による人権相談窓口を設置し、事業活動に関わる人権問題に対応する仕組みを設けています。

### 礼拝室の設置

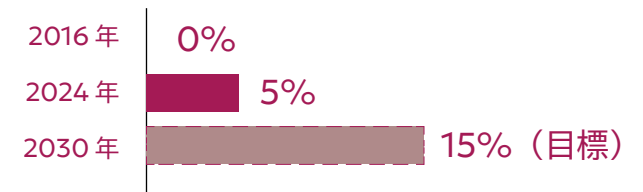
大阪事務所のオフィス内にイスラム教徒向けの礼拝室を設置しています。

### 取得済み認証

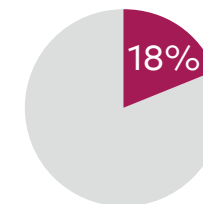
- ・えるぼし
- ・あいち女性輝きカンパニー
- ・名古屋市子育て支援企業
- ・名古屋市女性の活躍推進企業



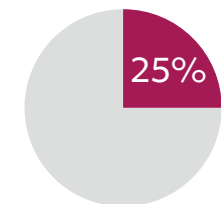
### 管理職に占める女性労働者の割合



### 係長級にある者に占める女性労働者の割合 (2024年)



### 労働者に占める女性労働者の割合 (2024年)



### 採用における男女別の競争倍率 (2024年)

男性：12.4 倍  
女性：12.3 倍

### 男女別の採用 10 年前後の継続雇用割合 (2024年)

男性 55%  
女性 73%

## IV. 地域社会とともに

当社は「人やまちを元気にする」をコーポレートメッセージに掲げており、地域の活動への参画や支援、文化の醸成を積極的に行い、CSRで標榜している各項目を実践しながら、社会の繁栄に寄与しています。

### 地域活性化への貢献、芸術・文化への支援

人々に喜びや勇気、驚きや発見をもたらし、まちの景色を作り、地域社会を活かし、人と人をつなげる——建築にはそのような力があります。建築物の設計がまちや地域社会に大きな影響を与えることを考えると、建築設計という業務に留まらず、建築設計事務所が地域社会に広く貢献することは自然な流れです。近年、文化施設などで社会包摂の動きが活発になり、SDGsの精神である「誰ひとり取り残さない」が広く認識されています。一般の方々に建築やまちづくりへの理解を深めてもらうことは、建築設計事務所の責務と言えるでしょう。

安井建築設計事務所は、コーポレートメッセージ「人やまちを元気にする」を掲げ、地域の活動への参画や支援、文化の醸成を積極的に行っています。

#### 建築とまち、人をつなぐ

##### 安井建築設計事務所オープンハウス

「北大江たそがれコンサート WEEK」の期間に、事務所の活動を地域に発信しようと始まったのが開催のきっかけで、毎年秋に事務所1階を公開し、安井建築設計事務所の歴史や建築作品などを紹介しています。このイベントは2008年に始まり、2024年で17回目を迎えました。オープンハウスでは、模型やパース、動画を使った展示のほか、ワークショップやトークセミナーも開催しています。学生や親子連れ、海外からの参加者などが集まり、さまざまな出会いやコミュニケーションが生まれる貴重な機会となっています。

さらに、2014年からは建築公開イベント「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（イケフェス大阪）」の一環として、安井建築設計事務所オープンハウスを実施しています。2024年から、東京で新たに始まった建築公開イベント「東京建築祭」にも参加し、事務所公開を行っています。また、100周年事業の一環として、当社が設計に関与した建物を会場に「まちなか展覧会」を大阪と東京で開催しました。



昨年のオープンハウスは「建築原図」をテーマとしてさまざまな建築作品の一般公開と、一枚の紙で建築をつくろう！「折り紙建築」ワークショップ第3弾を実施しました。

サントリーホール創建以来、多くのコンサートで使用され、世界的に有名なピアニストたちも演奏した歴史あるスタインウェイグランドピアノ No. 495730 を「美土代クリエイティブ特区」1 階に設置しました。平河町ミュージックスではこのピアノによるコンサートを開催していきます。



### 音楽とまち、人をつなぐ 平河町ミュージックス

2010 年から東京事務所1階を会場として開催している「平河町ミュージックス」は、地域に価値を提供できるものはないかと考えて始めました。これまでに 53 回の公演を重ね、地域との連携を深めながら音楽の新しい挑戦を支援し、芸術文化の醸成に寄与しています。音楽ホールでのコンサートとは異なり、アーティストが企画段階から参加し、楽曲や演奏スタイルを提案するなど、実験的な取り組みを行っています。2020 年にはオンラインコンサートも実施し、新たな公演スタイルにも取り組みました。

東京事務所は 2024 年 1 月に千代田区平河町から神田美土代町に移転しましたが、「平河町ミュージックス in 神田」としてイベントは継続して開催しています。

### 若手アーティストへの支援

「取手アートプロジェクト」や「学生ワークショップ」など芸術・文化への協賛・運営協力を行う中で、若い世代の活躍を支援しています。

## 国際交流への貢献

国際交流を通して、国際的視野、海外文化への理解、国際的に活躍できる人材育成の推進のため、海外研修生の受け入れ、国際会議の運営、海外大学の寄附講座、海外フォーラムでのセミナーや出展に積極的に参画しています。

### 海外フォーラムでの協力

UIA、ARCASIA、Docomomo International Conference、Vietnam Japan Architecture Forum  
PhuongDongUniversity  
広州大学 ほか

### 寄附講座

ハーバード大学

### 海外研修生の受け入れ

国際建築活動支援フォーラムを始め、さまざまなつながりからの研修生の受け入れを行っています。

### ベルカヌス・プログラム

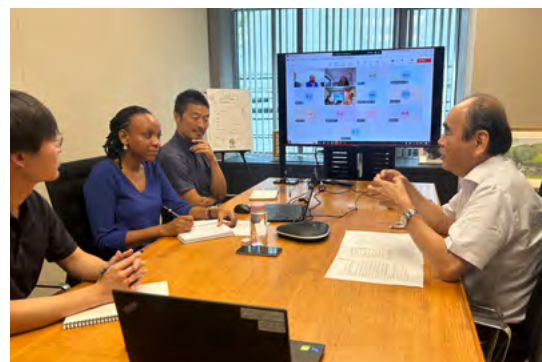
日本とヨーロッパの技術者や研究者の交流を促進することを目的としたプログラムで、参加者は日本で技術者としての経験を積むことができます。日本企業での実務経験を得るとともに、日本語や日本文化に触れる貴重な機会が提供されます。

2006 年から研修生の受け入れを開始し、これまでに 9 ヶ国から 15 名以上の研修生を受け入れてきました。

### JICA インターンシップ

JICA の留学生は、国造りを担う行政官、研究者、ビジネスパーソンなどとして自国での実務経験を持ち、日本の大学院で学ぶ高度人材です。本プログラムは、彼らが日本企業や機関での実践的な経験を積み、日本と自国の架け橋として活躍するための基盤を築くことを目的としています。

当社では、建築分野以外の学生も積極的に受け入れており、2024 年度には 2 名の学生を迎えました。2 週間のインターンシップ期間中、日本の商習慣や仕事の進め方を深く学ぶ機会を提供しています。学生自身の大学外でのネットワーク構築においても貴重な経験となっています。



JICA インターンシップにおいて、コーポレートコミュニケーションを専門とする学生を受け入れ、実務経験の提供やネットワーク構築の機会を創出しました。

## 専門能力を活かした次世代育成

将来の持続可能な社会、望ましい社会は、次世代によって担われます。その観点から、必要な専門知識や情報の提供、キャリア選択支援、職業観の醸成に努めています。

### 建築の種まき、次世代へつなぐ 出前授業・親子見学会

出前授業は、キャリア教育の一環として実施され、次世代に向けて建築や建築設計の職業の社会的使命や魅力を、子どもたち（小学校から高校生を対象）に伝える企画です。当社が設計に関与した小学校での授業のほか、社長の佐野吉彦も講師として参加し、業務紹介や設計ツールの体験講座などを行っています。

また、親子建築ツアーの開催や地元高校生の体験型進路学習の受け入れ、内閣府男女共同参画局が推進する「リコチャレ（理工チャレンジ）」への参画など、関係機関と連携しながら多様な取り組みを展開しています。



当社が設計に関わった山本能楽堂では、能の公演とトークイベントを実施しました（上）。また、サントリーホールでは親子見学ツアーを開催し、設計者の案内のもと、普段は入ることのできないバックヤードやステージを訪れた子どもたちは大興奮のツアーとなりました（中）。社長自らが先生となり、小学生を対象にした特別授業で初めての BIM 体験を行いました（下）。当社が設計した建築 5ヶ所を巡る展覧会「まちなか展」を、医誠会国際総合病院のアートストリートで開催しました（右）。





山都町総合体育館バスレル

安井建築設計事務所は2024年に創業100周年を迎えました。企業としての社会的責任（CSR）を果たしながら、建築設計監理を通じた社会課題の解決と価値の創造に取り組んでまいりました。

社会から信頼される企業であり続けるために、これまで行ってきた取り組みの水準をより高め、SDGsが目指す持続可能な社会実現に向けて貢献します。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





100 周年事業の一環として、社員とご家族を対象に見学会を開催しました。見学先となった大阪倶楽部は、創業者・安井武雄が設計を手がけ、当社設立のきっかけにもなった建築です。

# 安井建築設計事務所

## CSR レポート 2025 に対する第三者意見

### 評価できること

建築を通して「人やまちを元気にする」という安井建築設計事務所のコーポレートメッセージが、わかりやすく伝えられている良いレポートだと思います。第三者意見を寄せるのは今回で2回目となりますが、昨年度に比べて、同社がお客さま、地域社会、社員、その他のステークホルダーと一緒に事業活動や社会貢献活動に取り組んでいる姿勢が明確となり、掲載内容が一層充実したという印象を受けました。また、社員の声や現場の写真が数多く掲載されており、CSR コミュニケーションの観点からも優れたレポートだと言えるでしょう。

2024 年は、安井建築設計事務所にとって創業 100 周年にあたる年でした。特集2で紹介されているように、同社は、この記念すべき年に新たなオフィス「美土代クリエイティブ特区」（東京事務所）を開設しました。同事務所は、働く場としての新たな形を提案するとともに、地域とのつながりを重視しており、これらのビジョンを体現するために1階に半屋外スペースを設置したり、働く場所を自ら組み立てるカスタムフィールドの考え方を採用するなど、ハード・ソフト両面での工夫が凝らされています。私も現地を見学させていただきましたが、事務所内では社員一人ひとりが本当に自由に生き生きと仕事をしており、また、1階の開放的なスペースでは近所に居住しているであろう男性が散歩途中に立ち寄る様子が見てとれました。

特筆すべきは、「美土代クリエイティブ特区」において米国・健康建築性能評価制度の WELL V2 を取得するとともに、ビル全体で ZEB-Oriented (BELS 5 ☆) を取得している点でしょう。エネルギー消費量が大きい延べ床面積が 10,000 m<sup>2</sup>以上の建物に適用される ZEB-Oriented ですが、

同事務所が入居するビルは築 60 年の建物をリノベーションした 20,000 m<sup>2</sup>を超える大規模建築です。同社の設計力の高さと環境への理解の深さを感じます。「継続的に革新的な環境技術とソリューションを提供し、人と社会づくりに貢献する」という安井建築設計事務所のミッションが体現された建築物だと言えるのではないのでしょうか。

今回のレポートで最も高く評価したいのは、安井建築設計事務所の CSR 活動の4つの柱（「Ⅰ．建築の品質と業務の信頼性」「Ⅱ．社会と環境のサステナビリティ」「Ⅲ．人の力を育て、活かす責任」「Ⅳ．地域社会とともに」）に関して、具体的な取り組みを明記し、これらの取り組みを評価する指標（KPI）と目標値を策定したことです。同時に1年間の実績値も公表されました。今回、KPI を設定・公開していただいたことで、CSR 活動のプロセスや成果を社員を含むステークホルダーと共有し、持続的な改善プロセスがビルトインされたことを高く評価したいと考えます。

その他、レポート内では、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進、地域活性化への貢献、芸術・文化への支援、国際交流への貢献、専門能力を活かした次世代育成などについて記述されています。一つひとつは地道な取り組みですが、いずれも重要な社会貢献活動です。貢献意欲の高さを評価するとともに、次年以降の継続的な取り組みに期待したいと考えます。

### 要望したいこと

特集1では、長年、交通関連施設の設計に携わった安井建築設計事務所が新たに宇宙ビジネス室を創設したこと、そして、



高岡 美佳  
立教大学経営学部  
教授

宇宙船のスペースポートやその他宇宙関連の建物・まちづくりについて学びを深めていることが掲載されており、興味深く読ませていただきました。

安井建築設計事務所が今後、国境を超えたビジネスを積極的に展開していくにあたって、以下の点の開示をご検討いただきたいと考えます。

まず第1に、人権・ハラスメント防止の取り組みを発展させ、「人権方針」を制定してはいかがでしょうか。2015 年に英国現代奴隷法が施行されて以降、国内外における人権に対する関心は高まる一方です。自社の事業活動において影響を受ける人々の人権を侵害しないこと、マイナス影響の回避と緩和のために「人権デューデリジェンス」を実施すること、そして、マイナスの影響が生じた場合は是正に向けて適切な対応をとることは企業の社会的責任にとって欠かせません。

第2に、これは第1の点とも関わりますが、グローバルに事業を展開するにあたっては、サプライチェーン全体として社会的責任を果たす必要があります。そこで、安井建築設計事務所としての「CSR 調達方針」および「CSR 調達ガイドライン」の策定・公表を検討してはいかがでしょうか。設計業務においては直接的な建築材料の調達をともなわないケースがあるものの、材料選定に大きな影響を及ぼすわけですから、基本的人権の尊重や安全で衛生的な労働環境の確保などの課題にサプライヤーとともに取り組むことは、今後、グローバルに事業を展開していく上で不可欠でしょう。

次年度以降の対応に期待します。

### 第三者意見を受けて

このたびは、当社の CSR レポートに対して、貴重なご意見と温かい励ましのお言葉をいただき、心よりお礼申し上げます。

創業 100 周年という節目にふさわしい内容としてご評価いただけたことは、社員一同にとって大きな励みとなりました。また、「美土代クリエイティブ特区」や KPI の設定と公表といった取り組みに対し、具体的なコメントと高い評価を賜ったことに、深く感謝申し上げます。

KPI の設定指標については、まだ改善、工夫の余地があると考えており、次年度の継続課題とらえております。また、ご指摘いただいた「人権方針」や「CSR 調達ガイドライン」の策定については、今後グローバルに事業を展開していく上で不可欠な基盤であると強く認識しております。とくに、「人権デューデリジェンス」の視点を取り入れた事業活動のあり方や、設計段階からサプライチェーン全体の社会的責任を意識した取り組みは、私たちが持続可能な企業として進化するために必要不可欠です。今後、関係部門と連携しながら、具体的な方針策定に向けて検討を進めてまいります。

私たちはこれからも、建築を通して「人やまちを元気にする」という企業理念のもと、社会課題の解決に貢献し続けられる企業をめざし、CSR 活動のさらなる深化と実効性の向上に努めてまいります。



株式会社安井建築設計事務所  
執行役員 広報・CSR 部担当  
山浦 晋弘



医療複合施設【i-Mall】医誠会国際総合病院

## 会社概要

|        |                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 名称     | 株式会社 安井建築設計事務所                                                                         |
| 本社     | 大阪市中央区島町 2 丁目 4 番 7 号                                                                  |
| 設立     | 1924 年（大正 13）4 月 1 日<br>安井武雄建築事務所創設<br><br>1951 年（昭和 26）1 月 16 日<br>株式会社安井建築設計事務所に組織変更 |
| 創業者    | 安井武雄                                                                                   |
| 資本金    | 8,000 万円                                                                               |
| 社員数    | 461 名（2025 年 4 月現在）<br>一級建築士 204 人（2025 年 4 月現在）                                       |
| 拠点     | 大阪、東京、名古屋、福岡、仙台、<br>台北、ホーチミン                                                           |
| 安井グループ | 株式会社安井ファシリティーズ<br>Yasui Sekkei Vietnam, Ltd.                                           |
| 海外提携先  | 上海：株式会社大島設計<br>北京：有限会社 AGC 都市計画<br>ハノイ：VNCC（ベトナム・ナショナル・<br>コンストラクション・コンサルタント）          |